
すぶりんぐブディング

弾楽一奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すぷりんぐプディング

【Nコード】

N0218K

【作者名】

弾楽一奏

【あらすじ】

如月春霞は対人恐怖症の疑いがかけられるほどの内気な女の子。桜の町にやってきたひとりの転校生。
落ちるべくして恋に落ちる春霞は友情と愛情の天秤に心を悩まされる。

超変則的王道ラブストーリー。って王道じゃないだろ！？

？ 桜吹雪と始まりの鐘

恋の中に沈むもの。

私はそれを拾ってみようと思いました。

彼はそんな私を笑ったけどそれでも私は一生懸命に探し続けます。切ないラヴストーリーなんて言っちゃうと陳腐かもしれないけど他に例えようが無いのが私の恋のお話。

凍てつく海に飛び込んで宝物を探すような痛みを伴った恋の話。百聞は一見にしかず。少しばかり覗いてみてください。

私は如月春霞^{きついろきはるか}です。今年高校二年生になりました。桜並木から舞い落ちる花弁のカーテンが私は大好き。そんなメルヘンな女の子。

本当ならゆっくり眺めながら登校したいところなんだけど、今日はそうも行きませーん。

寝坊しちゃったのです！

亀の如き驚異的な足の遅さの私でも歩くよりは走ったほうが速いです。体力だけは自信があるので学校に着くまでは走っていきます。このまま全力疾走していけばぎりぎり遅刻は回避できるはずですがでも本当に瀬戸際なのでこの桜吹雪を身体で弾きながら走ります！

「ふわ。それにしても…すごい桜吹雪」

今日は風が強いみたいでいつもより桜の花が舞っています。

だからその時私は気付きませんでした。

彼が桜の木陰に佇んでいることに。

彼と出会うのはもうしばらく後です。ここでは出番は与えられません。申し訳ありません。

学校に着くころには身体中汗びっしょりです。いくら四月の初めでまだ冷えるといっても30分も走り通しでは新陳代謝の悪い私でも汗が流れ落ちます。

「ありゃーハルってば汗でベットベトじゃない!?」

ハル。私のあだ名です。

でもそう呼んでくれるのは小学校からの友達さきしまかれんの咲島花恋ちゃんだけ。私にとっても真似できないアクティブさで男子に大人気らしいです。ただ本人は鬱陶しがっています。男なんてろくなモンじゃねー、と吐き捨てて。

「うん。遅刻しそうだったから走ってきたんですー」

「へー。家からずっと?」

「うん。ずっと」

「ありや。相変わらずハルってば体力だけはあるんだねー」

教室に着いてしばらくすると汗が冷えて気持ちが悪くなってきた。うっ。

「ハルー。どうしたん? そんなもぞもぞしてさ」

「ちよっと汗が冷えてきたかも。ぞわぞわします」

ニヤリ、と擬音が聞こえそうなくらいに花恋ちゃんが笑ったのを私は見ました。私は知ってます。この笑い。花恋ちゃんが何か悪いことを考え付いたときにするこの笑いを!

花恋ちゃんが私のほうにすーっと手を伸ばしてきて背中をついと指でなぞります。

「ひゃうんっ!!?」

あうっ……。汗で冷えた服が花恋ちゃんの指の動きで私の背中に押し付けられます。

この筆舌しがたい強烈な刺激! 恥ずかしながら思わず声が漏れてしまいます。

ニヤリ。ニヤーリ。

「ありやありや。どうしたのかなハルちゃん?」

「つつ、つつっ」

「ひゃあっ!!」

「そんなイイ声で鳴いちゃってえ。……ワタクシ咲島花恋ちゃん、正直興奮してまいりましたあっ!!」

うへへへへ、なんて変態さんチックな笑みを浮かべながら迫って

くる花恋ちゃんに私は正直戦慄しました。何ですかっ！？そのアヤシイ手の動きとつか指の動きは！？

うっう。私、お嫁にいけない身体になっちゃうんでしょうか？

乙女の貞操が！まさか友達によって！しかも同性！そんなのダメですっ！！

「にやはー！！イッタダキまーす！！」

「貴様ー何やつとるかー！ー！ー！ッ！ー！！！」

ずっぱーん！

目の前をカーリングのストーンの如く滑っていく花恋ちゃん。教室のドアに頭をがつつりぶつけてやっと思まりました。心なしか頭から煙がぷすぷすと……。

「なんじゃコノ色ボケ娘は。朝っぱらから何をトチ狂っておる」

片手に巨大ハリセンを持つ女の子。艶のある黒髪をツインテールにした低身長こていしやうのこの娘。

私の数少ない友達の一人。上新理桜子しんりようちゃん。日頃から自分の名前が言いにくいと嘆いている真っ直ぐな剣道少女。いつもこんな感じで花恋ちゃんをハリセンでシバいています。

「た、助かりましたあ……」

ほっと胸を撫で下ろします。文字通り私の胸は撫でてそのまま垂直に下りるくらいの起伏しかありません。ってこれは全く関係ないですね。忘れてください。

「しかし危機は去らずッ！今再び捕食のとき来たり！ゴチになりますあ……す……」

あわわわ。早くも復活した花恋ちゃんがまたもや私に襲い掛かってきます！

「天罰」

ばちこーん！

スケルトンの選手のようにうつぶせのまま床を滑っていく花恋ちゃん。教室の隅の掃除ロッカーに鈍い音を立てながらぶつかりやっと思まりました。心なしか頭から魂のようなものが……。

「やっと静かになったな。やあ、ハルおはよう。今日もいい一日になりそうだな」

人一人を瀕死状態にしてやけに爽やかな笑顔。

普通この惨状を見ればうろたえること必至でしょう。でも今の一連の流れが私達の日常ですからいつも通りです。

「うん。おはよう理桜子ちゃん。今日は一段と激しかったですねー」

「いつもいい加減にして欲しい。ツッコむこちらの身にもなれと言うのだ。大体力加減も結構難しいのだぞ？力を入れすぎれば花恋の額をカチ割ってしまう」

ハリセンですかっ！？

「ああ、そうだ。中国拳法の気功術の一つに硬気功というものがあってだな。これは気を練ることによって自身の身体を鉄のように硬化させるんだが、これを私はハリセンに応用する。鉄の如き硬さを持った私のハリセンは岩を砕きそして花恋の額を割ることが出来る！」

「ありやりやりやりや。そんな訳の分からんもので額割られちゃたまりませんわ。いやマジで」

額をさすりながら花恋ちゃんが戻ってきます。

あれだけのほぼ交通事故といっても過言じゃない程の衝撃を受けたきたにも拘らずまるで無傷というのが恐ろしいです。

「ワタクシ生来頑丈なつくりになっているのでございますよ。あれくらいの衝撃じゃーびくともしませんねー。リオ姐の硬気功とやらを使ってもワタクシの額は割れませんかもしれないかも？」

「ほお。ならば試し斬りしてみようか……！」

「やれるものならやってみるがイイ！！私は逃げも隠れもしないぜ！」

剣呑な雰囲気。ピリピリした空気が二人の間に漂い始めました。二人は仲良しさんですがよくこうやっていざこざを起こしてしまいます。大抵その後に残るのは変形した机。割れた窓ガラス。窪んだ天井と床。あと先生に連れられて生徒指導室でこっぴどくお叱りを

受ける二人。

もう何回目ですか！学習してくださいっ！

きーんこーんかーんこーん。

二人の間に水をさすようにチャイムの音が鳴り響きます。朝の水
ームルーム開始の合図で、そろそろ先生が教室にやってきます。流
石に二人も戦闘態勢を解いて口惜しそうに自分の席へと戻ってい
ます。

良かったです。友達二人が喧嘩してるのを見るのは私としてもち
よっとキツいところがあるのです。

「勝負はお預けだぞ」

「預かりたくもないけどねー」

「喧嘩はダメですつ。危ないですつ！」

口ではなんと言っているも私達三人は結構仲良しこよしです。

私はあんまり友達を作るのが得意ではないので二人の存在は大き
いです。二人ととっても大好きです。桜の花と同じくらい大好き
です。

だから私は思わなかったのです。

二人よりも好きになる人が現れるなんて。

友情とは比べられないほどに優先度が高い、愛情というものの存
在を私は初めて知ったのです。

結果的に私は花恋ちゃんと理桜子ちゃんを傷つけてしまったのか
もしれません。今までの楽しい自由気ままな関係にはもう絶対に戻
れないでしょう。私にはそれが悲しい。二人との関係の崩壊は身が
引き裂かれるほどに苦しい。

だけど。

それでも。

私は彼を選んだのです。

？ 桜吹雪と始まりの鐘（後書き）

お初にお目にかかります。弾楽一奏と申します。

恋愛小説は今回が初めてなので見苦しい箇所もありますが、どうぞよろしく願います。

あー、恋してえなー！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0218k/>

すぷりんぐプディング

2010年10月9日03時34分発行